

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-311841

(43)公開日 平成5年(1993)11月22日

(51)Int.Cl.⁵
E 0 4 F 13/08

識別記号 片内整理番号
U 8913-2E
1 0 1 Q 8913-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平4-118718

(22)出願日 平成4年(1992)5月12日

(71)出願人 000004673

ナショナル住宅産業株式会社
大阪府豊中市新千里西町1丁目1番4号

(72)発明者 山岡 昌樹

大阪府豊中市新千里西町1丁目1番12号
ナショナル住宅産業株式会社内

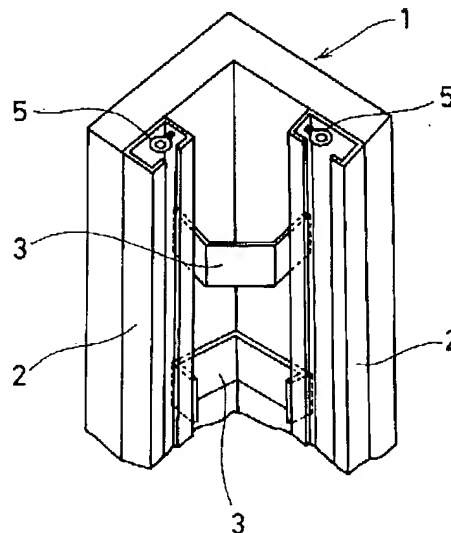
(74)代理人 弁理士 宮井 暎夫

(54)【発明の名称】 コーナーパネル

(57)【要約】

【目的】軽量化を図ることができ、容易に組立てることができるようにする。

【構成】L形の外装材1と、この外装材1の両端部に取付けた形鋼からなる一对の縦枠2と、両端部が一对の縦枠2にそれぞれボルト止めされ一对の縦枠を連結した連結プレート3とを備えたものである。



1...外装材
2...縦枠
3...連結プレート

【特許請求の範囲】

【請求項1】 L形の外装材と、この外装材の両端部に取付けた形鋼からなる一対の縦棒と、両端部が一対の前記縦棒にそれぞれボルト止めされ一対の前記縦棒を連結した連結プレートとを備えたコーナーパネル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、コーナーパネルに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のコーナーパネルは、図7および図8に示すように、溝形鋼52を上弦材および下弦材としたラチス梁等でL形のフレーム50を構成し、フレーム50の外側または内側に外装材51を取付けていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、フレーム50をラチス梁等で構成しているので構造が複雑になり、重量的に重くなるという問題点があった。また、フレーム50の接合部においては、フレーム50の連結材53がじゃまになることもあって、ボルト止めは行われず溶接により接合していた。このため、組立作業に手間がかかるという問題点があった。

【0004】したがって、この発明の目的は、軽量化を図ることができ、容易に組立てることができるコーナーパネルを提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明のコーナーパネルは、L形の外装材と、この外装材の両端部に取付けた形鋼からなる一対の縦棒と、両端部が一対の前記縦棒にそれぞれボルト止めされ一対の前記縦棒を連結した連結プレートとを備えたものである。

【0006】

【作用】この発明の構成によれば、一対の縦棒と連結プレートでフレームを構成したので、構造が簡単になり軽量化を図ることができる。また、縦棒は簡単な形状の形鋼であるため、縦棒と連結プレートを容易にボルト止めにより接合できる。このため、組立作業の能率が向上する。

【0007】

【実施例】この発明の第1の実施例のコーナーパネルを図1ないし図3に基づいて説明する。このコーナーパネルは、L形の外装材1と、この外装材1の両端部に取付けた一対の縦棒2、2と、一対の縦棒2、2を連結した複数の連結プレート3…とを備えている。一対の縦棒2、2と連結プレート3…はフレーム構成部材である。

【0008】外装材1は、出隅部に使用するもので外面が仕上げてある。縦棒2は、リップ溝形鋼であり、外装材1の内面の端部にその背面を当接させて取付けてある。取付けに際しては、図2および図3に示すように、外装材1の外側からタッピンビス4…により固定して

いる。また、この縦棒2の上端には、パネル吊り込み用のアイボルト5が取付けてある。連結プレート3は、一対の縦棒2、2の間の適当な個所に配設され、その両端部を縦棒2のフランジにボルト止めしている。この場合、連結プレート3は、外装材1の内面に当接するものと、当接しないものとを用意し、取付ける個所に応じて使い分けている。

【0009】組立時においては、縦棒2と連結プレート3をボルト止めしてフレームを構成してから外装材1を取付けてもよく、外装材1に一対の縦棒2、2を別々に取付けてから連結プレート3を取付けることも可能である。また、図2および図3に示すように、このコーナーパネルの横にパネル6が配置される場合、パネル6の枠6aと縦棒2をボルト止めすることができ、パネルの横つなぎが可能になる。

【0010】この実施例では、一対の縦棒2、2と連結プレート3でフレームを構成したので、構造が簡単になり軽量化を図ることができる。また、縦棒2は簡単な形状の形鋼であるため、縦棒2と連結プレート3、および縦棒2と枠6aを容易にボルト止めにより接合できる。さらに、縦棒2を形鋼としたことによりアイボルト5を取付けることができるため、パネル吊り込み作業が容易に行えるという利点がある。

【0011】なお、図4に示すように、縦棒2は溝形鋼等の他の形鋼でもよい。また、連結プレート3の形状も図4に示したJ字形等、一対の縦棒2、2を連結できる形状であればよい。図5および図6は第2の実施例のコーナーパネルを示している。このコーナーパネルは入隅部を形成するものである。すなわち、外装材1の内面が仕上げてあり、その外面の両端部に一対の縦棒2、2を配設している。また、これに伴い連結プレート3を、一対の縦棒2、2を連結できるように形成してある。その他の構成効果は、第1の実施例と同様である。

【0012】

【発明の効果】この発明のコーナーパネルによれば、一対の縦棒と連結プレートでフレームを構成したので、構造が簡単になり軽量化を図ることができる。また、縦棒は簡単な形状の形鋼であるため、縦棒と連結プレートを容易にボルト止めにより接合できる。このため、組立作業の能率が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の第1の実施例のコーナーパネルの要部斜視図である。

【図2】上側の連結プレートの位置での断面平面図である。

【図3】下側の連結プレートの位置での断面平面図である。

【図4】第1の実施例の変形例の断面平面図である。

【図5】第2の実施例の要部斜視図である。

【図6】その連結プレートの位置での断面平面図であ

る。

【図7】従来例の断面平面図である。

【図8】別の従来例の断面平面図である。

【符号の説明】

- | | |
|---|--------|
| 1 | 外装材 |
| 2 | 縦枠 |
| 3 | 連結プレート |

